神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Embodiment and Disembodiment in the Semantics of Japanese Adjectives: The Case of Tooi

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2016-12-22
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 本多, 啓, HONDA, Akira
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2083

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

日本語形容詞の意味における身体性と脱身体化: 「遠い」の場合

本多啓

1 問題のありか[1]

1.1 「遠い」の奇妙な振舞い (1): 状況による変化

日本語の形容詞「遠い」の空間的な隔たりを表す意味・用法は、主要な日本語辞書では (1) のように記述されている。

(1) a. 空間・距離のへだたりが大きい。はるかに離れている。へだたっている。 『日本国語大辞典第二版第九巻』「とおい」[2]

b. 場所が非常に離れている。距離が十分にある。
「—・い国」「—・くまで歩く」⇔近い。
『デジタル大辞泉』「とおい」[3]

c. 空間的に，隔たりが大きい。
「ー・い国」「ー・く離れている友」「ー・い空」「山頂まではまだまだー・い」 『大辞林』「とおい」[4]

しかし実際の使用例を見ると、「遠い」はこれらの記述だけでは捉えることができない性質を持つことが分かる。「遠い」はたとえば次のような使われ方をすることがある[5]。

(2) 郵便局が遠すぎる（徒歩 40 分くらいか） (Twitter)[6]

[1]本稿の旧版に関しまして、お二人の査読者より有益なコメントをいただきました。ここに記して謝意を表します。この最終版についての責任が著者である本多にあることは言うまでもありません。

[2]2001 年 9 月第一刷

[3] http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/157220/m1u/とおい/ 2014 年 2 月 19 日参照。

[4] http://www.excite.co.jp/dictionary/japanese/?search=とおい&match=exact&itemid=DJR_tooi_-010 2014 年 2 月 19 日参照。

[5]以下、データの最終確認日は断りがない限りすべて 2016 年 6 月 5 日である。Twitter のユーザー名も同日時点のものである。

[6] 麻沖丹 @asaokitan 2013 年 8 月 29 日 1:45

(3) a. ホテルが結構繁華街から遠い件。空港から 2500 円くらいかかった。
(Twitter)[7]

b. @benikichi_38
普通に電車で 2000 円くらいなのか
遠いよね、、、 (Twitter)[8]

ここでは、空間的な隔たりの大きさを具体的に示すのに、空間的な距離の表現ではなくて時間の長さと金額の大きさの表現が用いられている。つまり、次のような問題が浮かび上がってくる。

(4) 「遠い」は空間的な隔たりを表す語なのに、その隔たりの大きさを特定するときに時間表現や金額の表現が現れうるのはなぜか？

さらに、次のような実例もある。

(5) a. 小田原は鈍行だと遠い (東京から約 1 時間半) し、新幹線だと近過ぎる (東京から約 30 分) 微妙な場所です。 (Blog)[9]

b. 東横線、各停乗っちゃったから横浜がめっちゃ遠い (´°-°｀) (Twitter)[10]

c. 11:55 ごろの飛行位置。高度 11,600m、対地速度 710km/h。偏西風がかなり強いようで、今日はソウルが遠い、遠い。
［引用者注: 添付されていた図は省略。］ (Blog)[11]

ここからは次の問題が浮かび上がってくる。

(6) 同一の空間的な隔たりであっても、「遠さ」の程度が状況により様々に変わりうるのはなぜか？

(5) のバリエーションと見られるものとして、次の例がある。

(7) なんか中央線止まったぞ [12] あとひと駅が遠い [13] (twitter)

いったい、「遠い」とはどういうことなのだろうか。

---

[7] 中西大輔 @daihiko 2014 年 2 月 20 日 9:57
[8] は ら み @uhuhuhara 2016 年 4 月 25 日 10:18 (引用者注: 本文中の特殊文字を削除した。)
[9] http://yanabunn2.seesaa.net/article/129446729.html
[10] おーやま つづみ @smile14vi_m 2015 年 7 月 3 日 22:07
[11] http://d.hatena.ne.jp/podaka/20070209
[12] Yufuko @rhetorico 2013 年 9 月 6 日 13:54
[13] Yufuko @rhetorico 2013 年 9 月 6 日 14:15

1.2　「遠い」の奇妙な振舞い (2): 松井 (2013) の観察

「遠い」の奇妙な振舞いについては、前節で提示したもののほかに松井 (2013) がインフォーマルながら興味深い観察を提示している。

(8) a. 保育園が遠くて大変なのよ

b. お姉ちゃんの学校が遠くて大変

(9) a. 私の実家は空港から近いので便利よ

b. 飛行機だと東京から金沢は近いね

c. あなたは家から大学まで近くていいわね　(松井 (2013: 108))

松井 (2013: 108) が観察した会話場面では、「遠い」とされる (8a) は「車で 10 分／ベビーカーを押して 20 分」であり、(8b) は「電車で 1 時間以上／車で 30 分以上」である。一方「近い」とされる (9a) は「車で 30 分程度」、(9b) は「最寄空港から飛行機で 40 分程度」、(9c) は「車で 30 分程度の通勤時間」である。

ここで興味深いのは、車で 10 分の保育園は「遠くて大変」((8a)) なのに、空港から車で 30 分の実家は「近くて便利」((9a)) ということである。また、車で 30 分かかる学校は「遠くて大変」((8b)) なのに、車で 30 分の通勤は「近くていい」((9c)) と言われている。つまり、空間的な距離の大小と移動にかかる所要時間の長短は相関するはずなのにもかかわらず、これらの例では「遠い」「近い」と移動の所要時間の長短が反転しているわけである。

以上の事実観察を松井 (2013: 109) は次のようにまとめている。

(10) a. 純粋に距離にもとづいてその言葉が使われているわけではない。

b. 「近い」のか「遠い」のかを決めるのは移動にかかる時間だけでもない。

それでは「遠い」「近い」はどのように決まるのだろうか。松井は次のように述べている。

(11)　このように見てくると、「遠い」とか「近い」とかいうことばが使われるときには、話し手の主観的な判断が基準となっている場合も少なくないということがわかる。職場である大学に私の家が近いと言っていた同僚は、通勤に 2 時間近くかかると言っていた。2 時間に比べると、40 分の通勤時間は短いというのは実感から出たことばではないだろうか。…これらの話し手の感じ方なども、「近い」「遠い」ということばを含めた会話の例を理解するときの文脈として重要な役割をするものである。

「近い」「遠い」ということばの一般的な意味を知らない人はいないだろう。ことばの一般的な意味を知っていることは、当然、会話の中で用いられることばの意味を理解する前提となる。しかし、話し手が意図した意味を理解するのには、それだけでは足りない。さまざまな背景知識を文脈として取り出し、そこで「近い」「遠い」といったことばの意味調整を加えるのである。このような作業を「文脈によることばの意味調整」とよぶことができる。 (松井 (2013: 110))

松井が「一般的な意味」と呼んでいるのは先に (1) として挙げた辞書の意味記述のように記述される意味のことであると思われる。そしてそれとは別個にことばの使用に関わってくるものとして松井が挙げているのが「主観的な判断」「実感」「文脈としての背景知識」「文脈によることばの意味調整」である。「遠い」に関する松井の洞察を認知意味論の観点から実質化することが本論の課題である。

2　主語に対する制約？

本論でここまで取り上げてきた例ではすべて、「遠い」は＜場所＞＜地点＞を指すと見なされる名詞句を主語としてきた。このことに関して、久島 (1993, 2002) は次のように述べている。

(12) a. これと同じ用法は「遠い・近い」にもあり、基準点からの距離を表わす。この場合も、「町・駅・店」のように固定していて＜地点＞の意味を持つものについて言い、「人」のように移動するものついては言えない。 (久島 (1993: 57))

b. 「町・店・駅・公衆電話・自動販売機」等の、水平の直線的な距離を「遠い・近い」と言う。ここの「公衆電話・自動販売機」は設置されているものであって、＜地点＞の意味を持っている。同じく水平に位置していても、「人・動物」等は＜地点＞の意味を持たないのでここには含めない。また、「木」や「溝」のように固定していても、そこへ移動・接近することが考えにくいものについては、「遠い・近い」と言いにくい。 (久島 (1993: 66))

c. 水平方向の距離の場合、固定していない≪物≫について、「あの人は遠い」とは言えない。名詞「遠く」を使って「あの人は遠くにいる」と言う。 (久島 (2002: 59))

久島 (1993, 2002) の主張をまとめると次のようになる。

(13) a. 「遠い」は基本的に水平方向の隔たりを表す。

b. 水平方向の隔たりを表す「遠い」の主語は固定していて＜地点＞の意味を持つものに限られる。

c. なおかつ「遠い」の主語は基本的に場所の移動・接近の目標と捉えられるものに限られる。

ここでは主語についての制約を問題にしているので、(13b, c) について考える。

まず (13b) については、「遠い」は実際には＜場所＞＜地点＞と見なすことが困難または不可能な＜物＞を指示する名詞句とも共起する。以下はすべて筆者が実際の使用例を確認した例である。

(14)　□□が遠い

シフトレバー／灰皿／炊飯器／鞄／辞書／ティッシュ／ゴミ箱／ネコ／ノート／お茶／コップ／調味料／コーヒー／冷蔵庫／…

ここには「ネコ」のように自力移動するものも含まれている。

以下に実例をあげておく[14]。

(15)　シフトレバー／灰皿が遠い

a. …うとうとしてる時に夢をみた。マニュアル自動車を運転していた。安全運転だ。だがちょっとおかしい。シフトレバーが遠いのだ。左腕を後ろに廻してギアチェンジ。動くからいいかと思って運転して気がついた。「俺、左利きだったっけ？」。どうやら車は左ハンドルのようだ。(Twitter)[15]

b. 灰皿が遠いのが難点ですから、何か買ってきてドアに付けようかな。(Blog)[16]

［引用者注: a, b いずれも自動車の運転席にすわったときの印象。なお、添付されていた写真は省略した。］

(16)　炊飯器が遠い

[14]以下例文中の下線はすべて引用者による。

[15] 黒髪の遊民（湯のみ賞）おおさか @tunde_9r 2010 年 10 月 14 日 0:11 (引用者注: 本文中の特殊文字を削除した。)

[16] http://black.ap.teacup.com/kochakita/192.html / http://black.ap.teacup.com/kochakita/img/1343055637.jpg

a. ただいま…帰宅した直後にダイビングごろ寝キメてしまったのでごはん炊かなきゃならんのに炊飯器が遠いドヤァ…　(Twitter)[17]

b. おかわりの炊飯器が遠い。。丼にすりゃ良かった　(Twitter)[18]

c. おじさんごはんよそう体制［ママ—引用者注］ワロタ wwww ロフトの階段にぶつかりそう wwww 身長高すぎておじいちゃん wwwww 炊飯器が遠いって wwwww　pic.twitter.com/RRInF7fZ　(Twitter)[19]
［引用者注: 添付されていた写真は省略した。身長の高い男性が腰の位置にある炊飯器からご飯をよそおうとしているところ。］

(17)　鞄が遠い

a. 眠りに落ちそうになった時、携帯が鳴った。
鞄が遠い。
「かあさーん…」
「自分で取りなさい」
「とれねぇ…」
すると母が仕方ないわね！とエプロンで手を拭きながら携帯を取り、またも投げつけてくれた。　(Web)[20]

b. そうだ、警察。うっかりしていた。普通真っ先に警察呼ぶだろ俺！そうだそうだと、俺はポケットをまさぐった。ない。ああ、今日は鞄の中だった。鞄は、男の後ろ。ああ、鞄が遠い。下手に動けない所が今の状況の難点だ。　(Web)[21]

(18) 考えてみたら「とりとめ」ってなんだろう。
調べてみたいけど辞書が遠い。
隣の机の上だ。
手を伸ばせば届きそうなところにあるけど、
足がアンカから離れるのはいやだからやめておこう。　(Blog)[22]

---

[17] カナタヒナタ @hinata_kagehina 2011 年 6 月 22 日 17:41 (引用者注: ユーザー名末尾の特殊文字を削除した。)
[18] 2 号 @2_5_3 2015 年 1 月 9 日 21:15
[19] Mika Murayama @mikapnpn 2013 年 1 月 2 日 0:46 (引用者注: 2016 年 5 月 24 日現在削除されている。)
[20] http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=2914216
[21] http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=1376043
[22] http://tabekube.blog6.fc2.com/blog-entry-2153.html

(19)　ティッシュが遠い

a. ぐずり倒した挙句、腹の上で寝入った息子。熟睡モードに入ったらベッドにバシルーラしたいんだけど、なかなかその勇気がでないヘタレな私。(起きてぐずり直されたら厄介すぎる) しかしどうして私はフォースが使えないんだろうか•••。さっきから鼻がかみたいんだけど、ティッシュが遠い。 (Twitter)[23]

b. ティッシュが遠い…寝転がったままではとれないよ… (Twitter)[24]

(20) あぁあぁあ…お勉強休憩してアイス食べてたら猫が膝に…。ノートが遠い…。腕が猫のお耳に擦れて、猫がうざったそうにしてる…。じゃあ乗らないでよ(・谷・)ちょっと困りながらの投稿
pic.twitter.com/6UHwwQgRc2 (Twitter)[25]
［引用者注: 添付されていた写真は省略］

(21) この便のオススメをお願いしてみたら昆布茶が出てきた。フルリクライニングしたまま、やる気無く、撮ってみる。コップが、遠い……
［引用者注: 添付されていた写真は省略］ (Blog)[26]

(22)　お茶が遠い

a. …お茶を飲みたくて身体を起こしてもらい、お茶が遠い…取れないなあ…という気がした感覚？… (Blog)[27]

b. そうそうここで、「なか卯」でお昼御飯食べたら、もう店員さんもお客さんも優しくて、感動。
自然に席を詰めてあげたり、食券の買い方が分からない方に教えてあげたり、
私なんか、隣の方が、「ポットのお茶が遠いでしょ」とお茶を入れてくれたり。
なんか美味しさ２倍な感じでした。 (Blog)[28]

---

[23] ihavecar @ihavecar 2013 年 8 月 29 日 21:59
[24] SaKi #BFLY_FUK @xxxpiyoshi1 2016 年 2 月 4 日 22:22
[25] 朱雀 @yuireyluca 2013 年 6 月 26 日 16:01
[26] http://d.hatena.ne.jp/podaka/20070217#p8 / http://www.geocities.jp/podaka8525/photo/070217-55.jpg
[27] http://blog.livedoor.jp/yumemaro_k/archives/30648761.html
[28] http://6919.teacup.com/eryo/bbs/3822

c. 2008.04.04

お茶が遠い

石川です。こんにちは。

きのう安藤さんがお茶が濃い話を書いていたので、僕もお茶の話をします。「お茶が遠い」です。

給茶器はオフィスのいちばん端にあります。そして僕の席は反対側のいちばん端にあります。これがものすごく遠いのです。どのくらい遠いかというと

［引用者注: 写真は省略］

このくらい遠いです。奥に立っているのは僕で、もう点にしか見えません。ここから曲がり角を曲がったところに給茶器があります。

(Blog)[29]

さらに (13c) については、「遠い」は次の例のように場所の移動・接近の目標とは捉えられないものにも使われる。以下の「ネコ／猫が遠い」はすべて、猫を写真撮影の対象と捉えたうえで、撮影者の空間的な隔たりが大きいために猫を大きく鮮明に写すことができないということを述べている。

(23) a. ネコが遠い
pic.twitter.com/gM1PIQRDIl　(Twitter)[30]
［引用者注: 添付されていた写真は省略］

b. iPhone の望遠だとちょっと厳しい。猫が遠い　(Twitter)[31]
［引用者注: 添付されていた写真は省略。小さく不鮮明にしか写らないという趣旨。］

c. 超広角でエンカウント目の前なのに猫が遠い　(Twitter)[32]
［引用者注: 添付されていた写真は省略。小さく不鮮明にしか写らないという趣旨。］

[29] http://dpz.cocolog-nifty.com/q/2008/04/post_f935.html / http://dpz.cocolog-nifty.com/photos/uncategorized/2008/04/04/tooi.jpg
[30] olthon @olthon 2013 年 8 月 7 日 7:12
[31] トラン @lightcruiser 2015 年 2 月 22 日 23:42
[32] ネコ温泉 @necoonsen 2016 年 1 月 9 日 13:02 (引用者注: ユーザー名末尾の特殊文字を削除した。)

もっとも久島 (1993) は「遠い」の主語として「柿」のように＜地点＞としての意味を持たないものが現れることがあることにも着目してはいる。

(24) 「遠い・近い」は水平面上の一地点だけではなく、「あの柿は遠い」のように空中の一地点についても言えるが、その時、手や竿で柿に接近しようとしている意味が感じられる。これは、「広い」が「空は広い」と言った時、その中で活動することを考えて量を計っているのと同様であろう。＜接近＞や＜活動＞の意味があるので、「柿」も「空」も基本的には水平方向の距離や量が問題になっていると考える。　(久島 (1993: 66))

久島のこの議論の本来の趣旨は、「遠い」が基本的には水平面上の地点に関して用いられるという議論との関連で、水平面上でない空中の一地点が「遠い」の主語になることもあるというものである。したがって上に提示した (13b, c) に対する反例を説明するものではない。また、「＜接近＞や＜活動＞の意味がある」ことから「「柿」も「空」も基本的には水平方向の距離や量が問題になっている」が導き出されるのはなぜかという問題も残る。

何かが「遠い」と判断されるとは、結局、どういうことなのだろうか。

3　考察のための枠組み: 準拠枠と行為による環境の分節

車で 10 分の保育園は「遠くて大変」((8a)) なのに空港から車で 30 分の実家は「近くて便利」((9a))、あるいは車で 30 分かかる学校は「遠くて大変」((8b)) なのに車で 30 分の通勤は「近くていい」((9c)) と言われることと類似の現象は、実は形容詞の使われ方では珍しくはない。たとえば、Leisi (1961: 邦訳 229-231) およびそれを踏まえて鈴木 (1973: 63-64, 67-68) が指摘しているように、「大きいアリ」と「小さいゾウ」ではどちらが「大きい」かというと、「小さいゾウ」の方である。「大きい X」より「小さい Y」の方が「大きい」というのには一見論理的に矛盾しているように見えるかもしれないが、アリとゾウに関して言えばこの捉え方は現実には大小関係の捉え方としてきわめて自然なものである。

これは準拠枠の違いによるものである。本論で言う「準拠枠」は英語で言えば “reference frame” ないし “frame of reference” となるが、これは Leisi (1961) および鈴木 (1973) が「かくれた規準」のうちの「種の規準」と呼ぶものに対応する。ただし形容詞の意味に関わるのは実際には種だけではないので、本論の用語としては「種の規準」ではなく「準拠枠」を用いる [33]。

「大きいアリ」は＜アリ＞というカテゴリーを準拠枠として、そのカテゴリー

[33] 本論と Leisi (1961) および鈴木 (1973) との関連を指摘してくださった査読者に感謝いたします。

の中で相対的に「大きい」個体を指している。一方「小さいゾウ」は＜ゾウ＞というカテゴリーを準拠枠として、そのカテゴリーの中で相対的に「小さい」個体を指している。そして「小さいゾウは大きいアリより大きい」というときの「大きい」は、＜大きさを比較できるもの＞というカテゴリーの中で当該のゾウと当該のアリを比較している。つまり、「小さいゾウは大きい$_{(1)}$アリより大きい$_{(2)}$」というときの「小さい」「大きい$_{(1)}$」「大きい$_{(2)}$」はそれぞれ別の準拠枠に基づいて判断されているわけである。

「大きいX」より「小さいY」の方が「大きい」ということが矛盾なく成立しうるのはこのように準拠枠が違うからである。このように、形容詞の意味を考えるにあたっては準拠枠を考慮に入れなければならないわけである。

そして「遠い」の場合に準拠枠の認定に関わっていると想定されるのは、行為による環境の分節、あるいはより厳密には、環境の中の事物が知覚・行為者に対して持つ意味ないし行為の可能性(アフォーダンス)の知覚にもとづく環境の分節である。

動物は常に、環境の中の事物が自分に対して持つ意味にもとづいて環境を分節している。佐々木 (2015: 68-69) にその例がいくつか紹介されている。たとえば、カマキリは、獲物になる動物が自分の前肢の長さとその先端にある鎌状の前肢の幅で捕まえることができるサイズの範囲内に入るときだけ捕獲動作を開始するが、そうでない時には捕獲動作を始めない。つまり周囲の動物を「捕獲可能な動物」と「捕獲不可能な動物」に分節しているわけである。人間の場合、様々な幅の隙間を通り抜ける際に隙間の幅が肩幅の1.3倍を下回ると身体を回して通るようになる。つまり人間は肩幅の1.3倍を基準として様々な隙間を「そのまま通過できる隙間」と「身体を回さないと通過できない隙間」に分節しているわけである。

日本語の形容詞「遠い」の使われ方においては、このような、環境の中の事物が知覚・行為者に対して持つ意味の知覚ないし行為の可能性の知覚に基づく環境の分節が、準拠枠の設定に関わっている。このことを次節以降で具体的に見ていく。

4　＜場所＞性を持たない事物の場合

第2節で例を紹介した＜場所＞＜地点＞と見なすことができない名詞句の例は、いずれもその事物をめぐる行為の可能性、行為を実行することの難易、行為を実行する上で知覚・行為者が感じる困難・負荷・不可能性の大きさが準拠枠を構成している。負荷が大きい場合に、その大きさの原因が知覚者と当該事物の空間的な隔たりの大きさに帰属されている場合に「遠い」が用いられるわ

けである。

(15) の「シフトレバー」「灰皿」はともに自動車の運転席に座った時の印象を述べた文である。いずれも、通常運転をするときの姿勢では対象が手の位置から距離的に離れすぎていて、手を伸ばして操作・使用するのに困難を覚えるということである。

(16) の「炊飯器が遠い」に関しては、(16a) は疲れ果ててごろ寝をしている現状の体勢からは炊飯器が離れているために操作することができず、操作するには起き上がって炊飯器のところまで移動しなければならないのだが、そのように移動して操作することはこの時の筆者には面倒だということである。(16c) は、炊飯器が低い位置に置かれていて、背が高い人物にとっては膝くらいの位置にあるので、その人物が立った姿勢でご飯をよそう時に腰を曲げなければならず、大変そうだということである。

(17) の「鞄が遠い」に関しては、(17a) は、鞄が離れたところにあるため現状の寝た姿勢では手が届かず、起き上がらない限り中の携帯電話を取り出すのが困難ということであり、(17b) は、鞄が離れたところにあるためやはり現状の姿勢では手が届かず、男に気づかれないように体を移動せずに手だけ伸ばして鞄に手を伸ばしてそこから携帯電話を取り出すのは不可能だということである。

(18) の「辞書が遠い」は、辞書が離れた位置にあるためやはり現状の体勢のままでは取るのが困難ということである。(19) の「ティッシュが遠い」も同様である。

(20) の「ノートが遠い」は、ネコが膝に乗ってきたため体を自由に動かせなくなり、そのためノートに手が届かなくなって勉強ができなくなったということである。

(21) の「コップが、遠い」は、座席をフルリクライニングの状態にすると、所定のコップ置きに置いてあるコップと身体との隔たりが大きくなってコップを手にするのが困難であるということである。

(22) の「お茶が遠い」では、まずお茶を飲むためにはお茶を手にしなければならないが、空間的な隔たりの大きさのためにそれが困難になっているということである。(22a) は、現状の体勢では手を伸ばしてもお茶に手が届かないということであり、(22b) は、現状の座り位置では手を伸ばしてもお茶に手が届かないということである。また (22c) は身体全体の移動が関わっており、自分の机から少し歩いていかないとお茶を手にすることができないということである。

(23) の「ネコが遠い」に添付されていた写真には、真ん中にネコが小さく写っている。被写体であるネコと撮影者の間の空間的な隔たりが大きいため、そのネコを被写体として見栄えよく撮ることができなかった、ということである。

これらの例において、ある空間的な隔たりが「遠い」と判断されるのは次の場合であると考えることができる。

(25)　「遠い」の使用条件:
ある事物に関わる行為を実行するに際して知覚・行為者が感じる困難や負荷 (そして場合によっては不可能性) が大きく、そしてその困難・負荷・不可能性の大きさの原因がその事物と別の事物 (とくに知覚・行為者自身) との間の空間的な隔たりが大きいことに帰属される場合に「遠い」が使用可能になる。この場合、実行されるべき行為が「遠い」にとっての準拠枠を構成する。

これに関して補足しておくべきことが少なくとも四点ある。

まず細かい問題として、「その事物と別の事物 (とくに知覚・行為者自身) との間の空間的な隔たり」としたのは次のような場合を想定しているためである。

(26)　a. 京都は遠い。

b. 京都は神戸からは実はけっこう遠い。

(26a) のように「〜から」が明示されていない場合には、デフォールトで「話者 (知覚・行為者) の現在地から」と解釈される。すなわち関与する二つの事物は明示された「京都」と明示されていない「話者 (知覚・行為者)」ということになる。一方 (26b) のように「〜から」が明示されている場合には二つの事物は主語名詞句とカラ格の名詞句ということになる。この場合は「京都」と「神戸」がそれに該当する。(25) はこの両方の場合を捉えたものであるが、以下の議論では (26a) のように明示されない知覚・行為者 (話者) が基準点になる事例を中心に検討することになる。

第二に、問題となる行為の種類は多様である。たとえば「シフトレバー／灰皿」((15))「炊飯器」((16c; 背が高い人物がご飯をよそうのに苦労している例))「ノート」((20)) の例では、その事物の通常の使用の仕方が直接問題になっている。これは Tomasello (1999) の言う「文化的なアフォーダンス」に該当し、本多 (2013) の用語で言えばその物に「ふさわしい行為」となる。慣習的にその対象に繰り返し仕掛けられる類の行為である。

事物の文化的なアフォーダンスないしそのものにふさわしい行為が関わるということは「遠い」の判断には「どのような事物が関わるか」が影響してくるということである。たとえば知覚・行為者から同じ隔たりの位置にあっても「テレビ本体ないしテレビの画面」と「テレビを操作するリモコン」では「遠い」と判断されるかどうかが変わるわけである。

一方で、「文化的なアフォーダンス」ないし「ふさわしい行為」ではない行為が関わってくる事例もある。「ネコが遠い」((23)) では「一期一会の相手を被写体として見栄えよく撮影する」というこの場の一回限りの行為が問題になっている。また「炊飯器」((16a, b))「鞄」((17))「辞書」((18))「ティッシュ」((19))「お茶」((22)) の例では、これらに「ふさわしい行為」を実行する上で前提として必要になる行為としての「移動してそれがある位置に到達する」「それを手に取る」という行為が問題になっている。

第三に、準拠枠を構成する行為の種類は物に一意的に対応するわけではない。これはその物に「ふさわしい行為」に限っても言えることである。たとえば「炊飯器」((16a, b, c)) に関して言えば、「ご飯を炊く」行為が問題になる場合 (a) と「そこからご飯をよそう」行為が問題になる場合 (b, c) とがある。次の例も複数の行為が関わりうる例であり、ある隔たりが「遠い」かどうかの判断が関わる行為の種類によって変わる事例である。

(27) 黒板が遠い

この場合、「文字や図などを書く」行為の場合と「書かれた文字や図などを見る」行為の場合では、困難・負荷・不可能性を発生させる距離は異なり、それに応じて「遠い」と判断される距離も異なることになる。

黒板に関して「遠い」という判断が空間的な隔たりの大きさのみに基づいてなされるのではなく行為の可能性を準拠枠としていることは、次の実例からも明らかである。

(28) 一番前の席なのに黒板が遠い　(Twitter)[34]

第四に、行為を仕掛ける主体としての人物のあり方 (位置・状態) や行為を受ける対象としての事物のあり方 (位置・状態) も「遠い」の判断に影響を与える。たとえば同じ「炊飯器」でも (16a)(ごろ寝の事例) と (16c)(背の高い人物の事例) では事情が異なる。ごろ寝の事例である (16a) に関して言えば、知覚・行為者はたまたまこの時疲れ果ててごろ寝をしている状態にいたために負荷を感じていたのであって、ずっと正立した姿勢でいた場合や元気が残っていた場合にはそのような負荷を感じなかった可能性が高い。この場合、知覚・行為者のあり方は変化しうるので、それに伴って「遠い」かどうかも (かりに炊飯器の位置が変わらなくても) 変わりうるわけである。それに対して背の高い人物の事例である (16c) の場合には、知覚・行為者の背格好に変化が起こることはすぐには考えられないため、炊飯器がその位置にあり続ける限り知覚・行為者

[34] 柘榴の目覚まし時計枠募集 @ZakuRo2811 2016 年 4 月 20 日 10:54

は困難を感じつづけることになる。しかし、炊飯器の置き場が変わってもっと高い位置に置かれれば、「遠い」と判断されない可能性が高くなるわけである。(27)(28) のような黒板の文字を見る場合、視力が良い人かどうか、視力が良くない人の場合眼鏡などをかけているかどうか、によって同じ位置から同じ黒板を見るのであっても困難さは変わる。

次の (29) では炊飯器の周囲の環境が問題であり、(30) では知覚・行為者のその時点での状態が問題になっている。

(29) a. 米も炊きたいんだけど台所に邪魔な荷物が多すぎて炊飯器が遠いんだよな orz (Twitter)[35]

b. 段ボールのせいで炊飯器が遠いです… (Twitter)[36]

(30) a. 炊飯器を確認する気力がない。寝転がってるから炊飯器が遠い。(Twitter)[37]

b. おかゆ作りたいんだけど起き上がれず。炊飯器が遠い (Twitter)[38]

「遠い」に関係する事物のあり方、知覚・行為者のあり方、行為のあり方は多様である。「遠い」は、知覚・行為者にとっての、その都度その都度における行為の可能性にもとづいて判断されるわけである。とくに Twitter のようにリアルタイムでの発信が可能な媒体では、特定の一回限りの行為に関係する知覚・行為者の発言が記録されやすくなるわけである。

5　＜場所＞性を持つ事物の場合

第 1 節で言及した、「遠い」の主語として＜場所＞＜地点＞を指す名詞句が現れている例の検討に移る。

これらの例にはすべて、知覚・行為者の移動が関わっている。このことは、これらの「遠い」が起点を表す「から」句や着点を表す「まで」句と共起している、あるいはしうることからも明らかである。

移動は行為の一種と見ることができるので、これらの例も基本的には＜場所＞＜地点＞以外の主語の場合と同様に扱うことができる。

(25) 「遠い」の使用条件:

ある事物に関わる行為を実行するに際して知覚・行為者が感じる困難や負

[35] ＣＣＳーありす (半角やカタカナではない) @ccsalice 2009 年 8 月 25 日 4:03
[36] みう @miu_03 2010 年 11 月 13 日 22:17
[37] せっつぁん @@mj_setzer 2010 年 8 月 7 日 14:28
[38] チャトラ猫 @Chi_nYa_ 2012 年 6 月 18 日 22:54

荷 (そして場合によっては不可能性) が大きく、そしてその困難・負荷・不可能性の大きさの原因がその事物と別の事物 (とくに知覚・行為者自身) との間の空間的な隔たりが大きいことに帰属される場合に「遠い」が使用可能になる。この場合、実行されるべき行為が「遠い」にとっての準拠枠を構成する。

ここで、実行されるべき行為としてその場所への移動ないし到達が該当するということである。

先に第 1 節で提示した次の問題には、下のように答えることができる。

(31) a. 「遠い」は空間的な隔たりを表す語なのに、その隔たりの大きさを特定するときに時間表現や金額の表現が現れうるのはなぜか？　(=(4))

b. 同一の空間的な隔たりであっても、「遠さ」の程度が状況により様々に変わりうるのはなぜか？　(=(6))

(31a) に関しては、本稿では「遠い」と共起する時間表現・金額表現などは、空間的な隔たりそれ自体を測ったものではなく、目的地への到達に際して知覚・行為者が感じる困難・負荷・不可能性の大きさを測ったものであると考える。空間的な隔たりの大きさは知覚・行為者が感じる困難・負荷・不可能性の大きさと相関するが、その負荷が時間的なものである場合には時間表現が現れ、負荷が金銭的なものである場合には金額の表現が現れると考えるわけである。

(31b) については、同一の場所への到達であってもどのような移動手段を選ぶかによって準拠枠が変わること、さらに混雑度合などの状況の違いによって移動者が感じる困難・負荷の大小や到達の可能性が変わることによって説明ができる。

ここでいう状況の違いには様々なものが含まれる。

(32) お墓参りも、日本の心でしょうカ？　今から行くにはちょと遠いので…心からの祈りだけ、捧げておきますヨ #ガールフレンド (仮)　(Twitter)[39]

この例は環境の中に存在するリソースとしての時間の長さによって移動の可能性が変わることを示している。

(33) あちー
駅まで遠いー　(Twitter)[40]

[39] クロエ・ルメール bot @chloe_lemaire_l 2016 年 4 月 25 日 10:19
[40] ゆーた @yuppyeh028 2016 年 4 月 25 日 10:19

この例では気温 (および湿度) の高さにより駅まで行くことに伴う心理的・肉体的な負荷 (面倒である／大変である) が大きくなっている。

次の例も時間的な負荷が問題になる例として考えることができる。

(34)　羽田からが遠い

a. それにしても、羽田からが遠いなぁ。 飛行機で福岡から東京に行くよりも、電車で東京から家に行くほうが時間がかかるのは 少し うんざり。 (Blog)[41]

b. ホントに、羽田からが遠いです。
青森→羽田より、羽田→自宅 (相模原) が遠いです。
直行バスにしようと思いましたが道路渋滞にハマると何時に到着できるか分からないので横浜経由で帰りました。 (Blog)[42]

c. 今日は始めて岩国錦帯橋空港から飛行機に乗りました
乗りたいけど 787 はダメみたいで、737 でした
さすがに出来たての空港は綺麗で
しかも東京便しかありませんので、
乗り込みも楽々自衛隊の輸送機や F15 横目に離陸
一時間ちょっとのフライトです
ただ羽田からが遠いね渋谷で研修だったんだけど
1 時間以上かかる (Blog)[43]

d. 美唄から家まで 5 時間、近い様で遠い様で複雑、この時間は羽田からが遠い (Twitter)[44]

第 1.2 節で紹介した松井の次の観察は (25) に基づく以上の議論から説明することができる。

(10) a. 純粋に距離にもとづいてその言葉が使われているわけではない。

b. 「近い」のか「遠い」のかを決めるのは移動にかかる時間だけでもない。

(25) に基づけば「遠い」の判断基準は空間的な距離それ自体ではなく移動を行う際に知覚・行為者が感じる困難・負荷・不可能性である。そしてその負荷

[41] http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Namiki/3759/geodiary.html
[42] http://sagam1go.blog86.fc2.com/blog-entry-92.html
[43] http://todadc.livedoor.biz/archives/51831700.html
[44] Toru Fujita @toru_toru 2012 年 7 月 28 日 0:24 (引用者注: プロフィールによれば東京在住)

は時間的なものである場合もあるがそれ以外のもの (金銭、体力、気力など) の場合もあるわけである。

ここで具体的な事例として次のペアを取り上げる。

(35) a. 保育園が遠くて大変なのよ
(=(8a); 車で 10 分またはベビーカーを押して 20 分)

b. あなたは家から大学まで近くていいわね　(=(9c); 車で 30 分)

幼い子どもを預けるために子どもを保育園に連れていくのと、通勤のために単身で移動するのとでは、(距離、移動手段、所要時間が同じであれば) 前者の方が圧倒的に困難・負荷が大きくなるわけである。また車を運転することによる移動とベビーカーを押しながらの徒歩での移動は異なる準拠枠を構成すると考えられる。

本節では場所性を持つ事物に関して「遠い」が用いられた例を検討してきた。そして本節で取り上げた例では「遠い」に関わる知覚・行為者の行為は移動であった。しかしながら移動が関わる事例が場所性を持つ主語名詞句の場合に限られているわけではないし、逆に移動が関わらない事例が場所性のない事物に限られているわけでもない。

主語名詞句が＜物＞を指す場合で、知覚・行為者の移動が関わる例としては「炊飯器が遠い」((16a)) や「お茶が遠い」((22c)) がある。次の例も同様である。

(36) ■ [Other] コーヒーが遠い
最近研究室にコーヒーメーカーが増えたんですけど教授の部屋の近くにあるため遠すぎて面倒くさい。
こういうときに遠隔操作でコーヒーが作れるような機械があれば便利だなぁ。完成したら取りに行くだけ、みたいな。　(Blog)[45]

主語名詞句が＜場所＞性を持つものを指す場合で、知覚・行為者の移動が関わらない例としては、高台にある展望台から街を眺めた場合の「駅は遠くて見えない」などがある。この場合、準拠枠として関わっているのは移動ではなく、見るという行為である。

なお、知覚・行為者の移動が関わる場合の「遠い」には、次の (37) のように目標地点ではなく経路を主語とする例がある。

(37) a. (京都までの) 道のりはまだまだ遠い。

b. 京都はまだまだ遠い。

[45] http://sewig.jp/diary/?date=20061109#p01

目標地点と経路は隣接関係にあるので、(37a) の「遠い」と (37b) の「遠い」はメトニミーに動機づけられた多義であると言える。

6　「遠い」という判断は主観的になされるのか？

ここで「遠い」という判断は「主観的」なされるものかという問題について、少しだけ考えておきたい。

と言いつつも、実際にはこの問に答えることはきわめて困難である。というのは、「主観的」という言葉がどのようなことを指すのかを明確にすることがきわめて困難だからである。ただ言えることは、言語事実として、同一の距離にある同一の対象が場合によって「遠い」と判断されたりされなかったりすることは確かである。「遠い」に関しての「主観的」という言葉はそのような現象との関連で「恣意的」という意味合いで用いられるのだと推測することができる。

「遠い」という判断には前２節で述べたように少なくとも次の事柄が関わる。

(38) a. どのような＜事物＞が関わるか。

b. その事物がどのような＜位置・状態＞にあるか。

c. どのような＜知覚・行為者＞が関わるか。

d. その知覚・行為者がどのような＜位置・状態＞にあるか。

e. どのような＜行為＞が関わるか。

f. これらを取り巻く環境はどのようなものか

このような＜事物の種類＞＜その事物の位置・状態＞＜知覚・行為者が誰であるか＞＜その知覚・行為者の位置・状態＞＜行為の種類＞＜環境の特性＞の間に成り立つ関係によって、知覚・行為者の感じる困難・負荷・不可能性が決まる。負荷には時間的なもの、金銭的なもの、体力的なもの、気力的なものなど多様なものがありうるが、いずれにせよ困難・負荷・不可能性の大きさによって「遠い」かどうかが決まる。いわば「遠い」かどうかはこれらを変数とする関数として決まるわけである。これらの各変数はそれぞれ客観的なものとして環境の中にある。以上を適切に考慮すれば、「遠い」かどうかは決して恣意的に決まるのではないことになる。しかしながらこれらが関わることを適切に考慮に入れないと、「遠い」かどうかが恣意的に決まるかのように見えることになるわけである。したがって、「主観的」という語を「恣意的」という意味合い

で使うならば、「遠い」という判断は主観的になされるわけではないことになる[46]。

7　行為が関わらない事例

これまで取り上げてきた「遠い」の例では、物を操作・使用する、ある場所を目指して移動する、などといった知覚・行為者による行為が準拠枠を構成していた。行為を実行するに際して知覚・行為者が感じる困難・負荷・不可能性の原因が空間的な隔たりの大きさに帰属される場合に「遠い」が使われるということである。

しかしながら、「遠い」の使用例には知覚・行為者の行為に支えられているとは考えられないものがある。

(39) a. 目と目が遠い

b. 金星は近いが火星は遠い／ベテルギウスは遠い／地球から一番遠い星

c. 震源が遠い。

(39a) のような小さな規模の隔たりには操作・使用の困難さが関わるとは考えられない。また (39b, c) も、移動の可能性を想定した上での不可能性を述べているとは考えられない。いずれの場合も、行為とは独立に設定される準拠枠において、空間的な隔たりの大きさがある程度を超えていると捉えられているわけである。

(39) のように、そもそも行為の可能性が存在しない状況で、行為とは独立に空間的な隔たりの大きさがある基準を超えていると判断できるということは、前節までの議論に一つの問題を提起する。すなわち、前節までの事例のような行為の可能性が存在する状況の場合であっても、行為とは独立に空間的な隔たりの大きさが判断される可能性もあるということである。これは前節までの議論に対して重要な問題を提起するものである。

このような、行為の可能性が存在する状況で、あえて行為と独立に空間的な隔たりの大きさが判断されるという可能性を、本論は今のところ否定するものではない。しかしながら少なくとも前節で取り上げた例に関しては、行為実行に際して知覚・行為者が感じる困難・負荷・不可能性に基づく説明の方が母語話者の直観をより適切に捉えているというのが本論の立場である。そして、行為とは独立に説明されるべき例が存在しうることを本論は可能性としては否定

[46]疲労などの知覚・行為者の状態の変化とアフォーダンス知覚の関係については Proffitt (2006, 2008) などを参照されたい。

しないものの、そのような例の存在は、行為に基づいて説明すべき例が存在するということまでは否定しないわけである[47]。

また (39b) のような、移動・到達の可能性のない事物と「京都」のような移動・到達の可能性のある事物・場所とは実際には連続体をなしている。

(40) a. (神戸から) 京都は (私には) 遠い。

b. ニューヨークは遠い。

c. ペルニクは遠い。

d. 月は決して遠くはない。

e. 火星は決して遠くはない。

f. 土星は遠い。

g. ベテルギウスは遠い。

たとえば神戸市在住の人物にとっては、京都は現実的ないし潜在的な移動の目標になりやすいと思われる。ニューヨークもなりやすいと思われるが、人によってはさまざまな事情で海外渡航が制限されているために移動の目標になりえないこともありえるかもしれない。ブルガリアの都市ペルニクが移動の目標になる人はニューヨークよりは少ないと思われる。月や火星は宇宙飛行に関わった人物であれば移動の目標として想定できるかもしれないが、ほとんどの人物にとって目標にならないと思われる。そして土星やベテルギウスは誰にとっても移動の目標にはなりえないと思われる。このように、移動・到達の可能性のない事物と「京都」のような移動・到達の可能性のある事物・場所とは実際には連続体をなしている。

8　非空間的な事例

本節では、空間用法でない「遠い」を簡単に検討しておく。

非空間的な用法としてまず想起されるのは次のような時空間メタファーの例であろう。

[47]同様の議論は他の言語現象に関しても提示されている。たとえば英語の主体移動表現において、(ic) の「山脈」などどう考えても知覚者・行為者の身体の移動が想定できない事例が存在することは確かだが、その一方で (ia) のように特定個人の特定時点での移動を想定することではじめて説明できる事例も間違いなく存在するわけである (松本 (1997b: 215))。

(i) a. The road went up the hill as we proceeded.　(特定の具体物の現実の移動 (現実移動))

b. The highway enters California there.　(任意の具体物の仮想の移動 (仮想移動))

c. The montain range goes from Canada to Mexico.　(視点の移動 (視点移動))

(41) 遠い未来／昔

これについては、空間における「前方を見通す」「振り返って後ろを見る」に対応する「具体的に予期・想像する／現実的な事柄として真剣に考慮する」「はっきりと想起・想像する」という行為が関わっていることが考えられる。すなわちこれらは「予期・想像・考慮するのも困難なほど現在から離れた未来」「想起・想像するのも困難なほど現在から離れた過去」を表すことが考えられる。しかしこれについての検証は今後の研究を待たねばならない。

本論の議論との関係でより注目したいのは、以下の例である。

(42) マイホームが遠くなった。

(43) a. おむつ卒業は遠い

b. 結婚が遠い

c. 就職が遠い

(42) の「遠くなった」については、引越しなどの結果職場から自宅が遠くなったという解釈もないわけではないが、それより優勢なのは、「購入できる可能性が低くなった」という入手可能性に関わる解釈であろう。これは (22c) の「お茶が遠い」や (36) の「コーヒーが遠い」において、給茶器／コーヒーメーカーまで歩いていかなければお茶／コーヒーを入手することができないことに対応する形で、懸命に働いて資金を稼がなければ家を手に入れることができないことを表している。実例としては次のようなものがある。

(44) ６年生の計算ドリルを解きまくる。章を終えるごとに、チョコを１粒食べられる仕組み。
後に、SPI の問題集を解いたら、１問理解するのに３時間かかった。チョコが遠い。えらく遠い。 http://yfrog.com/h0r3jrpj (Twitter)[48]

また、「マイホーム」のようなものではなく出来事の場合には、「遠い」は実行の困難さ・可能性の低さないし実現までに必要になる負荷の大きさを表すことになる。(43) では、事態の実現までに本人または関係者に大きな努力・忍耐・寛容などが必要であり、また実現までに要する経過時間も長いであろうということが示唆されることになる。実例としては次のようなものがある。

(45) 就職が遠い…（＝＝；

[48] 中島なかじ @nakaji_55 2011 年 2 月 8 日 5:19

ただいま就職活動中なのでありますガーン

が

もう 10 件くらいサクラチル…　(Blog)[49]

これらの例は、メタファー表現として使われた「遠い」の例にも、行為を準拠枠とするものがあることを示している。

9　本論のまとめと位置づけ

9.1　「遠い」の使用における身体性と脱身体化

本論では「遠い」の空間的な隔たりを表す意味・用法について、次のように考えてきた。

(46) a. 行為が準拠枠を構成する場合

1. 主語が場所性を持たない場合
2. 主語が場所性を持つ場合

b. 行為以外のものが準拠枠を構成する場合

実際には行為が準拠枠を構成する場合と行為以外が準拠枠を構成する場合とは連続体をなしている。

行為が準拠枠を構成する場合の「遠い」の使われ方は (25) で捉えることができる。

(25) 「遠い」の使用条件:
ある事物に関わる行為を実行するに際して知覚・行為者が感じる困難や負荷 (そして場合によっては不可能性) が大きく、そしてその困難・負荷・不可能性の大きさの原因がその事物と別の事物 (とくに知覚・行為者自身) との間の空間的な隔たりが大きいことに帰属される場合に「遠い」が使用可能になる。この場合、実行されるべき行為が「遠い」にとっての準拠枠を構成する。

知覚・行為者にとっての困難・負荷・不可能性は (38) の関数と見ることができる。

(38) a. どのような＜事物＞が関わるか。

b. その事物がどのような＜位置・状態＞にあるか。

[49] http://ameblo.jp/mami337/entry-10925819857.html

c. どのような＜知覚・行為者＞が関わるか。

d. その知覚・行為者がどのような＜位置・状態＞にあるか。

e. どのような＜行為＞が関わるか。

f. これらを取り巻く環境はどのようなものか

行為が準拠枠を構成する場合の「遠い」の使われ方は、環境の中の事物が知覚・行為者に対して持つ意味の知覚ないし行為の可能性の知覚に基づく環境の分節が、準拠枠の設定に関わっている。この場合の「遠い」は事物との身体的な関わりがその事物の認識の基盤になるという認識の身体的な基盤を直接反映した使われ方になっていると言うことができる。

行為以外のものが準拠枠を構成する場合の「遠い」の使われ方は身体的な行為とは直接には結びつかない事物の認識のあり方を反映している。その意味でこの「遠い」は脱身体化されていると言うことができる[50]。

なお、本論では (以下第 9.2 節に述べるように先行研究の問題意識を引き継いで) 行為が準拠枠を構成する場合の「遠い」を主語の性質の違いによって分けて議論した。これを、関わる行為のタイプの違いに基づいて分類し直せば、次のようになる。

(47) a. その事物にふさわしい行為

b. それ以外の行為

- 接近・到達
  - 身体の移動
  - リーチング
  - その他 (目を凝らす、など)
- その他の行為

9.2　先行研究との関連における本論の位置づけ

本節では「遠い」を扱った先行研究の概観を通じて本論の位置づけを図る。

先行研究としてはまず (1) に挙げたような辞書類がある。

[50] ちなみに本論では、行為が準拠枠を構成する場合の「遠い」と行為以外のものが準拠枠を構成する場合の「遠い」の関係をメタファーによる拡張と考えているわけではない。これは一つには、どちらの場合も「遠い」は空間という領域内での隔たりを表しているからである。また第 8 節で述べたように、メタファー表現として使われた「遠い」の例にも行為を準拠枠とするものがあるからでもある。ただし、行為以外のものが準拠枠を構成する場合の「遠い」の方が行為を準拠枠とする場合よりも抽象度が高いと感じられるのは確かである。これについては第 9.3 節で記号接地問題と関連づけて言及する。

(1) a. 空間・距離のへだたりが大きい。はるかに離れている。へだたっている。

『日本国語大辞典第二版第九巻』「とおい」

b. 場所が非常に離れている。距離が十分にある。
「―・い国」「―・くまで歩く」⇔近い。

『デジタル大辞泉』「とおい」

c. 空間的に，隔たりが大きい。
「ー・い国」「ー・く離れている友」「ー・い空」「山頂まではまだまだー・い」　『大辞林』「とおい」

本論で取り上げた事例の多くは、これらの記述だけでは捉えることができない性質を持つ。これらの記述が「遠い」の性質を十分に捉えることができないのは、これらに知覚・行為者への言及がないことによる。指示対象と見なされる環境の性質のみに着目していて、環境の中で行為し知覚する人間の関わりを考慮に入れていないということである[51] [52]。

國廣 (1982: 161-162) は「遠い」の意義素を次のように提示している。

(48) トオイ (チカイ): ＜ふたつの地点の間の長さが、片方の地点を基準として方向性をもって眺めた場合、相関的に標準値より大きい (小さい) ＞

(國廣 (1982: 162))

「眺めた場合」とあるように、國廣は知覚者を想定しているが、この知覚者は行為の主体とは捉えられていない。また「地点の間の長さ」のように「地点」という用語を用いている。これは主語が場所性を持つ場合のみを想定しているということである。したがってこの記述は場所性を持たないものが「遠い」の主語となっている事例を捉えられない。

第 2 節 (12)(13b, c) で紹介したように、久島 (1993, 2002) は行為に言及している。しかし久島が行為として想定しているのは基本的には移動・接近という、身体全体の場所の変化だけである。(24) には「＜接近＞や＜活動＞」への言及があるが、その位置づけは明確ではない。

久島が「水平方向の隔たりを表す「遠い」の主語は固定していて＜地点＞の意味を持つものに限られる」とまとめられるような制約 ((13b)) を提案するにいたったのは、行為として想定していたのが移動・接近だけであったことと関連していると思われる。

[51]別の言い方で言えば、これは客観主義的な意味観の限界ということにもなる。
[52] 国立国語研究所 (1972) における「遠い」の記述にも知覚・行為者への言及はない。

形容詞の意味に行為の可能性の知覚が関わっていることを早い時期に最も明確に指摘したのは仲本 (1998, 2000, 2008) である。仲本は形容詞の解釈における「イベントフレームの喚起」「アフォーダンスに基づく解釈」の重要性を指摘している。「遠い」などの「位置形容詞」の場合は次のようになる。

(49)　位置形容詞の典型的アフォーダンス

a. 位置 (目標) ⇒ −／＋ アフォード (到達 (主体、目標))

b. イベントフレーム: 「行く」「来る」「着く」「(手／足が) 届く」
(仲本 (2000: 57))[53]

これは実質的に本論の考え方の出発点になっているといえるものである。ただ、仲本の議論も久島と同様、行為として想定していたのは主として移動・接近のようである。

なお、本論では行為が準拠枠を構成する場合の「遠い」を関わる行為のタイプの違いではなく「遠い」の主語の性質の違いによって分けて議論した。これは本論の議論が先行研究の問題意識を引き継いで出発していることによる。本論の議論の出発点の一つである久島 (1993, 2002) は、基本的には移動・接近という身体全体の場所の変化だけを行為として想定しており、それに伴って「水平方向の隔たりを表す「遠い」の主語は固定していて＜地点＞の意味を持つものに限られる」とまとめられるような制約 ((13b)) を提案しているのであった。本論で行為が準拠枠を構成する場合の「遠い」を関わる行為のタイプの違いではなく「遠い」の主語の性質の違いによって分けて議論したのは、本論がそのことを受ける形で出発していることによるわけである。

9.3　認知言語学・認知科学における本論の位置づけ

ここで認知言語学・認知科学における本論の位置づけについて述べておく。

認知言語学の範囲で見れば本論の議論は、まずは空間の構造の表現と移動の関係を論じた一連の研究[54]に連なるものである。また一方では形容詞の意味と行為との関係を論じた研究[55]にも連なるものである。実際本論の議論はすでに述べたように事実上仲本 (2000, 2008) が「遠い」に関して提示した短くも鋭い洞察を展開させたものと位置づけることができる。

今後の展開の可能性として、形容詞の準拠枠を行為と関連づける本論のアプローチが日本語の形容詞全般にどれくらい適用可能かという問題がある。新地

[53]仲本 (2008: 28) でも同じ趣旨のことが、これとは若干異なる用語で述べられている。

[54] Langacker (1990), Matsumoto (1996), 松本 (1997a, 1997b) および本多 (2002, 2005) などを参照されたい。

[55] 新地 (1997), 仲本 (2000, 2008) および本多 (2013) などを参照されたい。

(1997) が取り上げた「重い」や籾山 (2016) が議論している「かたい」などには本論のアプローチは比較的容易に適用可能であると思われるが、それ以外の形容詞については今後の検討課題となる[56]。

認知科学全般との関連では、行為と準拠枠のつながりについての本論の議論は行為による環境の分節ないし行為に基づくカテゴリー化・概念形成についての一連の研究[57]に連なるが、本論が特に深い関係を持つのはProffitt (2008) である。同論文は「動物は、いま行おうとしている行動を基準に世界を見ている」(“The world is seen relative to the behavior that is about to be performed.” p.196) という言葉に象徴されるように、ヒトを含めた動物の空間知覚が行為特定的 (action-specific) であることを明らかにしている。本論の議論は、同論文が明らかにした空間知覚の行為特定性の言語における現れの一端を解明したものと位置づけることができる。

また本論第9.1節で提示した身体性と脱身体化の議論は、認知科学で言う「記号接地問題」(The Symbol Grounding Problem)(Harnad (1990), 今井ほか (2014)) と関連すると思われる。記号接地問題とは今井ほか (2014) のまとめによれば次のようなものである。

(50) ハルナッドは「記号接地問題」(symbol grounding problem) を外国語の記号のみから外国語を学習する事態を例にあげて、以下のように提起した。

> あなたは中国語を学ぼうとするが、入手可能な情報源は中国語辞書 (中国語を中国語で定義した辞書) しかないとしよう。するとあなたは永遠に意味のない記号列の定義の間をさまよい続け、何かの「意味」には永遠にたどり着くことができないことになる。
> [Harnad (1990: 338)]

ハルナッドは，記号の意味を記号のみによって記述しつくすことは論理的に不可能であると指摘した。言語という記号体系が意味を持つためには、基本的なことばの一群の意味はどこかで感覚と接地 (ground) されていなければならないというのが彼の論点の中心である。

まったく意味のわからない記号の意味を、他の、やはりまったく意味のわからない記号を使って理解することはできない。他方、中国語の語を母語の語を介して理解することは可能である。母語の語は「感覚に接地」し

[56] なお、「遠い」には本文で言及した通り多種多様な行為が関わるが、「重い」「かたい」に関わる行為は種類がより限定されていると考えられる。

[57] 村山 (1990), 小林 (1992), Kemler Nelson, Chan Egan, and Holt (2004), Greif, Kemler Nelson, Keil, and Gutierrez (2006), Borghi (2005) および Labov (1973), Carlson-Radvansky, Covey, and Lattanzi (1999), Coventry and Garrod (2004), Grimm and Levin (2011) などを参照されたい。

ており、接地した語を通じて接地していない外国語の記号を理解することが可能なのである。　(今井ほか (2014: 3-4))

認知意味論では、空間はさまざまな概念メタファーにおいて起点領域になることなどにより、感覚運動的な経験に直接つながった基本的な認知領域と考えられきている。それに伴って、空間の構造を指し示す空間表現は、すべて一様に直接的な感覚運動的な基盤を持つ、一様に「具体的な」意味の表現であると前提されてきた。しかしながら本論の議論はこれに異を唱えることになる。

本論の議論が示しているのは、「空間」という同じ領域における隔たりを表すのに使われる「遠い」でも、感覚への接地の度合いに差があるということである。行為が準拠枠を構成する場合の「遠い」の使われ方は感覚への接地の度合いが高いといえる一方で、行為以外のものが準拠枠を構成する場合の「遠い」の使われ方は、身体的な行為とは直接には結びつかない事物の認識のあり方を反映している点において、感覚への接地の度合いが低いということができるわけである。そしてその限りにおいて、空間の隔たりを表わすという点では同じように「具体的」に見える「遠い」にも、より具体性の高いものと具体性の低いもの (抽象性を持つもの) があるということになる。

本論の議論はこのような知的展開を踏まえたものである。

9.4　残された問題

最後に、「遠い」の空間的な隔たりを表す意味・用法のうち本論で扱うことができなかった例を挙げておく。それは (51)(52) のような、垂直方向の隔たりを表す例である。

(51) 夢の中では青い空を　自由に歩いていたのだけれど　夢から覚めたら 飛べなくなって　夕焼け空があんなに遠い　ああ僕はどうして大人になるんだろう　ああ僕はいつごろ大人になるんだろう

(武田鉄矢「少年期」)[58]

(52) a. 天井が遠い

b. 雲が遠い

(51) は夕焼け空への移動ないし到達が不可能であることを述べたもので、本論の枠組みで扱うことが可能である。しかし (52) は問題になる。(52a) については、一つの解釈としては「手が届かない」がある。だがこの文は布団やベッドにあおむけに横たわっている場合にも用いられる。その場合には手が届くか

[58] この例をご教示くださった査読者に感謝します。

どうかは問題にならない。この時、どのような行為が関わっているのか(あるいはいないのか)、どのような困難・負荷・不可能性が想定されるのか、明確ではない。(52b) も同様である。

参考文献

Borghi, Anna M. (2005) “Object Concepts and Action,” *Grounding Cognition: The Role of Perception and Action in Memory, Language and Thinking*, ed. by Pecher, Diane and Zwaan, Rolf A 8–34, Cambridge University Press, Cambridge.

Carlson-Radvansky, Laura A., Covey, Eric S., and Lattanzi, Kathleen M. (1999) “ “What” Effects on “Where”: Functional Influences on Spatial Relations,” *Psychological Science* 10–6, 516–521.

Coventry, Kenny R. and Garrod, Simon C. (2004) *Saying, Seeing, and Acting : The Psychological Semantics of Spatial Prepositions*, Psychology Press, Hove and New York.

Greif, Marissa L., Kemler Nelson, Deborah G., Keil, Frank C., and Gutierrez, Franky (2006) “What Do Children Want to Know About Animals and Artifacts? Domain-Specific Requests for Information, ” *Psychological Science* 17–6, 455–459.

Grimm, Scott and Levin, Beth (2011) “Between Count and Mass: Furniture and Other Functional Collectives,” (Available from http://www.stanford.edu/˜bclevin/lsa11talk.pdf).

Harnad, Stevan (1990) “The Symbol Grounding Problem,” *Physica D: Nonlinear Phenomena* 42, 335–346.

Kemler Nelson, Deborah G, Chan Egan, Louisa, and Holt, Morghan B. (2004) “When Children Ask, “What Is It?” What Do They Want to Know about Artifacts?” *Psychological Science* 15–6, 384–389.

Labov, William (1973) “The Boundaries of Words and Their Meanings,” *New Ways of Analyzing Variation in English*, ed. by Bailey, Charles-James N. and Shuy, Roger W., 340–373, Georgetown University Press, Washington, DC.. (Reprinted in Aarts. B. et al. (eds.) 2004 *Fuzzy Grammar: a reader*, Oxford: Oxford University Press, pp. 67-90.)

Langacker, Ronald W. (1990) “Subjectification,” *Cognitive Linguistics* 1–1, 5–38.

Leisi, Ernst (1961) *Der Wortinhalt: Seine Struktur im Deutschen und Englischen, 2., erweiterte Auflage*, Quelle & Meyer. (鈴木孝夫訳 (1994) エルンスト・ライズィ 『意味と構造』講談社学術文庫).

Matsumoto, Yo (1996) “Subjective Motion and English and Japanese Verbs,” *Cognitive Linguistics* 7–2, 183–226.

Proffitt, Dennis R. (2006) “Embodied Perception and the Economy of Action,” *Perspectives on Psychological Science* 1–2, 110–122.

Proffitt, Dennis R (2008) “An Action-Specific Approach to Spatial Perception,” *Embodiment, Ego-Space, and Action*, ed. by Klatzky, Roberta L., MacWhinney, Brian, and Behrmann, Marlene, 177–200, Psychology Press. (Available from: http://people.virginia.edu/~drp/reprints/Proffitt_2008_CMU_Chapter.pdf.)

Tomasello, Michael (1999) *The Cultural Origins of Human Cognition*, Harvard University Press, Cambridge, MA. (大堀壽夫ほか訳 (2006) 『心とことばの起源を探る — 文化と認知 —』勁草書房).

久島茂 (1993) 「日本語の量を表す形容詞の意味体系と量カテゴリーの普遍性」, 『言語研究』 104, 49–91.

久島茂 (2002) 『「物」と「場所」の意味論』, くろしお出版, 東京.

國廣哲彌 (1982) 『意味論の方法』, 大修館書店, 東京.

国立国語研究所 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』, 秀英出版, 東京 (西尾寅弥執筆).

小林春美 (1992) 「アフォーダンスが支える語彙獲得」, 『言語』 21–4, 37–45.

佐々木正人 (2015) 『新版 アフォーダンス』, 岩波書店, 東京.

新地綾 (1997) 「形容詞＜重い＞の多義性に関する認知言語学的考察」, 『言語科学論集』 3, 77–104 (京都大学総合人間学部基礎科学科情報科学講座).

鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』, 岩波書店, 東京.

仲本康一郎 (1998) 『力学的形容詞の認知言語学的考察〜アフォーダンス的解釈をめぐって』, 京都大学人間環境学研究科修士論文.

仲本康一郎 (2000) 「アフォーダンスに基づく発話解釈—「行為の難易度」を表わす形容詞文」, 『語用論研究』 2, 50–64 (日本語用論学会).

仲本康一郎 (2008)「行為の空間と接近可能性」,『生態心理学研究』3–1, 23–34 (日本生態心理学会).

本多啓 (2002) 「 英語中間構文とその周辺—生態心理学の観点から—」, 西村義樹 (編) 『認知言語学 1: 事象構造』, 11–36, 東京大学出版会, 東京 (シリーズ言語科学 2).

本多啓 (2005)『アフォーダンスの認知意味論—生態心理学から見た文法現象』, 東京大学出版会, 東京.

本多啓 (2013) 『知覚と行為の認知言語学—「私」は自分の外にある』, 開拓社, 東京 (開拓社言語・文化選書 41).

松井智子 (2013) 『子どものうそ、大人の皮肉: ことばのオモテとウラがわかるには』, 岩波書店, 東京 (そうだったんだ! 日本語 / 井上優 [ほか] 編).

松本曜 (1997a) 「英語前置詞による「到達経路表現」—認知言語学的視点から—」, 『英語青年』 142–12, 661–663 (1997 年 3 月号).

松本曜 (1997b) 「空間移動の言語表現とその拡張」, 田中茂範・松本曜 (共著) 『空間と移動の表現』, 125–230, 研究社出版, 東京.

今井むつみ 他 (2014) 『言語と身体性』, 岩波書店, 東京 (岩波講座コミュニケーションの認知科学第 1 巻).

村山功 (1990) 「人間にとってのカテゴリー—カテゴリーをどう考えるか」, 佐伯胖・佐々木正 (編) 『アクティブ・マインド: 人間は動きのなかで考える』, 171–197, 東京大学出版会, 東京.

籾山洋介 (2016) 「形容詞「かたい」の意味: メトニミーとフレームの観点から」, 『言語文化論集』 37–2, 73–87 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科).

Keyword(s): 準拠枠、行為による環境の分節、アフォーダンス